

植木屋さんのYさん

先週の土曜日、隣地域に住むYさんが「花を聞いていました。お風屋開店直後に「おはよう」と、やって来ました。聞けば、今日は晴れているので自転車で来たとのこと。

「こんな急こう配の道を自転車で？」
「電動自転車だから、軽いもんさ」
「世間話」でした。天候の話から始まって、Mさんの亡くなったご主人との思い出話、共通の知人の話。

「おん。あなたと話したくなってね」
「ヒエーツ！ 嬉しいよ」
私を喜ばせた後、
「この店を始めて何年たった？」
「来月の五月一日で、満三周年です」
「よくつぶれないで来たなあ」
と、心からの感嘆を言葉に込めていました。

Yさんとは、もう八年近くのお付き合いです。Tさんのお姉さんであるMさんのお宅に、植木屋さんとして出入りしていた方です。その当時、Mさんのお宅にヘルパーとして訪問していた縁で知り合いました。

が、Mさんは「私は分からないから、あんたさ

ん聞いておいて」と言い、私が代わりに報告を聞いていました。おかげで私は「門前の小僧」のようになり、剪定の仕方について、雪囲いの仕方についての知識を増やしていきま

でも、いつも本題は「世間話」でした。天候の話から始まって、Mさんの亡くなったご主人との思い出話、共通の知人の話。

花屋繁盛記

連載24

人と人がつながって



NPO法人在宅生活支援サービスホーム花風

木村美和子理事長

一つの物事の見方は、なかなか面白くてついつい時間がたっていました。

賛同はされなかつたけれど

そのYさんは、三年

「ほう、欲のないことだな」
私の説明の仕方が悪かったのか、Yさんにとつては理解しがたいことだったのか、表情が語っていたのは「よく分からん」でした。
それからYさんが「花風屋を訪れること」はありませんでした。ですから、先週の来店はほとんど三年ぶりでした。
Yさんが私と話した「ウー!! ありがと」
「かかあが、聞いてこいり」と途絶えて売り上げゼロという日もありました。
「かかあが、聞いてこいり」と途絶えて売り上げゼロという日もありました。
「かかあが、聞いてこいり」と途絶えて売り上げゼロという日もありました。



「簡単に言う」と、みんなが集まって来てくれて世間話をしながら、物を買ってくれて、良かった良かったって言うてくれたら、それで良いと思

「この店で、男物のワイシャツとかズボンなんか置いてくれるのかい？」
「ハイ、置いてますよ」
「使つてない食器も良いのかい？」
「ハイ、良いです、良い

ご褒美をありがとう

「この三年は決して平坦に経過したわけではなく、いわれなきクレームをいただいたり、雪び」
「おだてではなく、私から褒めた言葉が、その人を力付けられたら良いと思います。」
三周年を前にして、もらった「ご褒美ほうび」のお話でした。